～なんでも話そう～

市長とふれあいミーティング報告書

平成23年度第５回開催テーマ

子育ちを地域で支えるまちづくり

開催日時　平成２３年１０月３日（月）１４：００～１６：００

会　　場　越谷市中央市民会館　　第４～６会議室

第4次越谷市総合振興計画

大綱２　だれもが健康で生きがいをもって安心して暮らせるまちづくり

２―１　ともに支え合いながら暮らせる地域をつくる
２―２　予防と助け合いのもとで、充実した地域医療体制をつくる
２―３　伸びやかに子どもが育ち、次の世代につなげる、子育てしやすいまちをつくる
２―４　障がい者（児）が生活しやすい環境をつくる
２―５　高齢者が敬愛され生きがいをもてるまちをつくる
２―６　市民生活を支える支援制度や体制の充実を図る

目　　次

１　ミーティングの内容 1
２　参加者からの意見・要望（文書で提出されたもの） 19
３　参加者の状況 22

◆このミーティングのテーマは、第４次越谷市総合振興計画の大綱に沿って設定しています

ミーティングの流れ

１　開会
２　市長あいさつ
３　パワーポイントを利用した事業概要説明
４　参加者とのミーティング
５　閉会(副市長)

※　凡例：文中の参加者の発言、意見は〇
市側の発言、回答は　●で、それぞれ表しています。

１　ミーティングの内容

●司会　それでは、これから参加者の皆さんのご意見をお伺いいたします。

まず、団体名とお名前を言ってからご発言をいただきたいと思います。

それでは、ご意見、ご要望のある方、挙手をお願いいたします。

○参加者　越谷市放課後子ども教室から参りました。

私は、先ほどご紹介がありました子ども教室の２教室の運営を担っている者です。その地域のボランティアの皆様にご協力いただいて運営している教室で、今課題となっていることとして、ボランティアを確保するために、各教室のコーディネートをする人たちが大変苦労している様子がうかがえるということです。地域で支えるまちづくり、地域で子育てをするためには、自治会のような地縁の組織に対して、活動をＰＲしたり、そこからボランティアを募ったりするような仕組みづくりが必要だなというのを非常に感じております。ボランティアの募集について、毎年青少年課から配布をしていただき、市の広報紙でもボランティアの募集をかけています、それでも応募してくる人数というのは一桁です。

実際にその一桁の方の内、活動する方の割合というのは、もっと少なくなるというのが現状ですので、どこかに私どもの活動をＰＲする仕組みづくりが必要ではないかというのが課題であると考えております。そのような地縁組織に対して、この「子育ちを地域で支えるまちづくり」というような考え方をどのように浸透させていくか、ぜひ市長のご意見としてお伺いしたいなと思います。

●司会　ただいまのご意見でございます。

地域でボランティアをする上で、地縁組織などからのボランティアの確保に、現在非常に苦労されているということで、地域の自治会等のボランティア、そこから確保するための仕組みづくり、あるいはその地域へのＰＲ、そういう仕組みが必要ではないかというようなご意見でございます。

それでは、お答えいたします。

●市長　ありがとうございます。

具体的な取り組みについては担当部長から説明させたいと思いますが、どれほど親たちが子ども教室の必要性を感じているか､知らないのか､知っていて遠いから行けないのか。ＰＲも大事ですが、子どもたちがどれほど求めているのかということを、もっともっと声を大にして、行政はもちろんですが、地域の皆さんにも知ってもらうということが、まず最初ではないかなというふうに思っております。

これからどういうふうに取り組むか、具体的な事柄については部長のほうから説明をさせたいと存じます。

●子ども家庭部長　いつも大変ありがとうございます。

放課後子ども教室、子どもの居場所づくりということで、地域で展開しており、現在１４教室参加をしていただいております。この放課後子ども教室、居場所づくりですけれども、会場が地区センター・公民館とか児童館、ミラクル、そのほかの公共施設等も活用し

ながら、小学校も含めて展開をしています。

先ほど説明がありましたが、ボランティアの方も非常に自由な発想ができる子どもたちに驚いたとか、子どもたちからパワーをもらったとか、参加された方も子どもたちと一緒に楽しく過ごしているような様子もうかがえます。そういうことで、私どももボランティアさんの協力につきましては、パンフレットまたはチラシ等でＰＲをしていますが、これからは広報紙とか、さらにはホームページ、そういったところでも呼びかけるとともに、社会福祉協議会にもボランティアセンターがございますので、積極的に呼びかけをしてまいりたいと考えています。

この放課後子ども教室につきましては、運営委員会を設置していまして、１２名で組織しております。この中でもやはりボランティアさん等地域の協力者の確保策ということを、調査検討項目にも入れております。そういった運営委員会の皆様とも一緒に知恵を合わせて工夫しながら、一人でも多くのボランティアの参加を募っていきたいと思っています。

我々も、さまざまな機会を通じて、こういった教室にご協力いただけるよう働きかけるとともに、ＰＲをしていきたいと考えています。よろしくお願いしたいと思います。

●司会　よろしいですか。

○参加者　ちょっと私の質問の答えにはなっていなかったなという気がします。私が一番お聞きしたかったのは、こういった事業と、地縁組織である自治会さんや、もちろん子ども会などもそうなのですが、そことのつながりをもつために、今は私たち市民が個々にお話をするという状態ではなくて、越谷市全体として、こういう地域で子どもを支えている事業に対して、自治会や、そういった地縁団体さんを積極的にバックアップするというような体制がとれないものかなというところでご意見を伺いたいのです。

ボランティアのＰＲや募集は今でもやってはいるのですが、先ほど言ったとおり、こんなに市民が何十万人もいるのに、一桁しか応募がないのです。そうすると、市長がおっしゃったようにＰＲ不足もあるのかもしれないのですが、地域で支えるとなると、やはりその地縁団体の核となる自治会や、そういう団体との連携がどうしても不可欠で、それを一市民が個々にやるということは非常に難しいということがあります。越谷市として何か仕組みづくりができないものかなというような意見を出させていただいたのです。

●司会　自治会にということになると、役所の組織の市民活動支援課というふうに組織が分かれています。地域の中でも自治会、それから子ども会、それぞれいろいろ所管が分かれておりますが、その辺をうまくリンクして、個々のボランティアがそれぞれの団体に呼びかけるという方法ではなくて、役所の庁内の連携ということもあるでしょうし、そういう総合的に地域で連携できるような仕組みが欲しいということでございますか。

○参加者　はい。

●市長　子どもたちが地域で健康に元気で、安心して安全に暮らすことができるように、皆さんが一生懸命取り組んでいただいているということについて、本当に感謝を申し上げます。世の中も非常に複雑多岐にわたり、お母さん方も一方では生活に追われてパートにも行かなくてはいけないというようなこともあって、子どもがややもすると放置されるような心配があり、皆さんに一生懸命取り組んでいただいているわけでございまして、このこ

とについては本当に敬服いたしております。

まずは親御さんたちに、学校が終わった後、こういう形でボランティア活動をやっています。こういうサークルなんかがありますよということを、まず知っていただきたい。部長が説明したように、いろいろと活動している皆さん方が連絡をとり合って、中身の充実等に取り組んでいただいているというのはわかるのですが、子を持つ親たちにこういうことの必要性というものを、知っていただきたい。もっと連携を持っていただく必要があります。今、ＰＴＡとの連携をどういうふうに持っているか、私も十分理解しておらないのですが、やはりＰＴＡが学校だけではなく、地域でも学校が終わった後に安心・安全に暮らすためにはどう取り組んだらいいかということについて、また子どもたちが時間をどうやって有効に使うかということを十分に考えていただきたいという願いを持っています。やはり、特にＰＴＡの皆さんとはもっともっと連携を密にしていただいて、片や一生懸命やっている、しかしなかなかそのことがご理解いただけない。参加者も少ないということには、やっている皆さんからしては非常に不本意ですよね。

そういう点では、求める人と一生懸命サービスを提供している人と、お互いに合致しなくてはいけないわけですから、そのためには関係団体との連携もしっかりととる必要があると思いますので、ＰＴＡとの関係について、部長のほうで具体的な取り組みあったら説明をさせます。

●子ども家庭部長　今、市長からＰＴＡとの連携という話がありましたが、越ヶ谷小学校さんの活動は、ＰＴＡとの連携から始まったというふうに伺っております。この放課後子ども教室のスタートのときには、たしか「地域子ども教室」という名称でした。それから、「放課後子ども教室」に名称が変わったのですが、やはり基本は私も同じ認識です。地域を基本として、地域の教育力を高めていく。その活性化を図ることが、この放課後子ども教室の大きな目的になっていますので、やはり、地域との連携ということが一番大切なことではないかと考えております。

したがいまして、先ほど私もＰＲの話を申し上げたわけですが、会場は小学校とか地区センター・公民館ということで、やっぱり地域と密着した形で、この放課後子ども教室が展開されていますので、その辺との連携ということをさらに強化をしてまいりたいと考えております。また、私もこの間テレビで見たのですが、東京では団塊の世代の方と小学校で子どもたちとで放課後に縄跳びをしたり、お手玉をしたりという、そういう団塊の世代の方のパワーをお借りした取り組みが放映されていました。

そういったことも、これからの大きなポイントになると思いますので、ボランティア登録方式で､いろんな人材を確保する必要もあるのかなと考えています｡多方面にわたって、個人でボランティアに参加したいという方もいらっしゃいますし、地域のＰＴＡの方々、自治会の方々、また老人会の方々、いろんな団体の連携ということもさらに強化して、進めていきたいと考えています。

●司会　それでは、そのほかのご意見はございますでしょうか。

では、一番向こうの方。

○参加者　ＮＰＯ法人子育てサポーター・チャオから参加しています。

今の専門機関との連携ということでお願いしたいと思います。チャオでは去年から訪問事業を展開しています。イギリスで３０年以上前から取り組まれ、ブレア政権のときに全国的に普及して､今では世界中で活動を展開している事業で､埼玉県で３カ所なのですが、越谷はその中の１カ所ということで、去年から訪問事業を進めています。

去年の秋から、訪問活動をスタートさせたのですが、専門機関との連携というところで申し上げますと、どうしてもやっぱり民間です。地域のおばちゃんたちが、なかなか外に出られない未就学児のいる家庭に行って、本当にフレンドシップの関係で、傾聴しながら昔でいう近所のおばちゃん的な感覚の支援をしています。完全にボランティアでしているのですけれど、その活動の中で、今年は、市外なのですけれども、被災者が来られてご要望をいただいたり、西のほうから転勤してきたけど、こちらの方は危険が多いのではないかということでなかなか外に出られないとか、双子のお子さんが生まれて、多子家庭になったとか、そういう方もたくさんおられます。子育てサロンなんかでも相談していますけれども、そういうところに相談できる方はまだいい方で、行きたいけれども、家を出られない。子育てというのは家の中で子どもを見ているのが普通みたいな感じで、こんなに支援がたくさんあるのに、まだ全然知らない。サービスの情報が伝わっていないという方もたくさんいるのです。

越谷でも､希望があれば４カ月未満のお子さんのところには助産師さんたちが行くとか、何か問題があれば児童相談所とか子育て支援課の職員が行かれるとか、訪問事業というのは、いろいろやっていると思うのですが、近所の方たちが手助けできる支援として、問題になる前に、少しでも軽いうちにと越谷でも活動しています。今日もその第２期のボランティアさんの養成講座をやっているのですが、そうすると他市からも越谷でそういったボランティア活動をやりたいという浦和や松伏の希望者がいます。

問題の軽い方はいいのですが、実際にやってみると、これはちょっと大変な家庭だなというところにもぶち当たります。そういったときに、どうしても保健センターなり、子育て支援課とか保健所の方とかいろんな方との連携、専門家との連携というものをしていかないと、民間の団体だけの力ではなかなか難しいと思います。あと、私たちがホームスタートで受けられない家庭は、そちらのほうにつなげていくという形もとりたいと思いますし､今受けている方にも､民生委員の方からご紹介を受けたという方もいらっしゃいます。民生委員さんは、その担当の地域のどの家庭にも伺うという可能性があるということは、お年寄りもたくさんお世話していると思うのですが、小さいお子さんを持つ家庭に行かれて、ちょっと気になるなと思っても家庭の中には入っていけない。また、しょっちゅうその家庭に行くわけにもいかない。では、どうしたらいいのということになります。結局ほかのいろんな活動の中では、軽いほうだから見過ごしてしまったり、これは後回しみたいな形になってしまいます。保健師さんたちの訪問もそうだと思います。

ある程度重い方、イエローゾーンとかレッドゾーンに入るレベルの家庭には、皆さん支援の手は届くのですが、グレーゾーンでちょっと気になる方に対し、保健師さんや民生委員さんの活動が忙しく行けないところを、私たちとの連携がとれれば、重くなる前に元気な家庭に戻すことができるということもあります。イギリスでは虐待とか問題の重い方と

かを支援していく形よりは、予算的にも期間的にも早く元気にできるという、家庭が元気にできるという結果も出ているということで、これだけ全国的に、世界的に普及したのだと思います。ぜひホームスタートのこともご理解いただいて、各関係機関とうまく連携がとれるような、援助をしていただくと私たちも助かると思いますので、よろしくお願いいたします。

●**司会**　今のご意見は、訪問事業、これはホームスタートというのでしょうか。子育てサービスになかなか足が向かない方とか問題になる一つ手前でもう少し支援が行き届いたほうがいいというケースがあるということで、その場合には保健師やケースワーカーとボランティアの皆さんが連携をとって、問題が大きくなる前に支援ができればということで、そういった連携がとれないかということでございます。

●**市長**　ありがとうございます。

いろいろと真剣にお考えいただいて取り組んでいただいていることにつきまして、深く感謝を申し上げます。やはりこういう対象となる方にある程度具体的にＰＲしながら、お困りの方、サポートを必要としている人は、ぜひおいでくださいと積極的に働きかけをするというお気持ちは十分わかりますので、行政からお困りの方にはこういうところがありますよという紹介を積極的にして、皆さんのやる気を持った取り組みに、しっかりとお応えしＰＲしていく必要があると思います。

また、専門性を有するものについては、市が仲介をして、しかるべく専門家に紹介をしていくということが大切なことでございますので、しかと受けとめていきたいと思います。

●**子ども家庭部長**　さまざまな子育ての不安とか悩みとか、場合によっては虐待とかもありますので、なるべくそういう孤立した子育てにならないよう市も積極的に子育てサロンや地域子育て支援センターにおいて支援をしています。

先ほどお話がありましたが、確かにそういう場所に来られないような方、家にいらっしゃる方で、子育てに不安とか悩みとか持っている方はたくさんいらっしゃると思います。そういう形で、市では助産師さんや保健師による妊産婦、新生児訪問ということで、「こんにちは赤ちゃん訪問事業」というのをやっています。ホームスタート事業ということで民間のチャオさんもＮＰＯとして活動を展開していただいていますが、お互い連携しながら、きめ細かなサービスを提供するためには、当然必要なことだと我々は認識しております。今回も先ほど講習会の話がありましたが、そういったことにも積極的に協力をしていきたいと思っています。お互いの連携事業については、今後の検討課題とさせていただきますので、よろしくお願いしたいと思います。

●**司会**　そのほかにご意見はございますか。

○**参加者**　子ども会から参加しております。

青少年課、また子ども家庭部におきましては、日ごろ子ども会活動にご支援、ご協力いただきまして、深く感謝しております。また、各児童館、ミラクル等におきましても、子ども会活動にご協力いただきまして、本当にありがたく思っております。

私どもは、しらこばとのキャンプ場でキャンプをさせていただくことがあります。越谷の施設を使って越谷の自然を知り、また越谷を知ろうという目的で行っているものなので

すが、１００人ほどが参加する中で水道の蛇口が、本当にこのようなことをこの場でお願いしていいのかどうかわからないのですけれども、蛇口が６個しかありません。とても活動に不便をきたしている状態です。せっかくのキャンプ場で、場所もいい所ですのでもうちょっと整備していただければ、さらに子どもたちが使いやすくなるのではないかなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

●司会　ありがとうございました。

しらこばとキャンプ場の水道の蛇口が少ないということです。

〇参加者　さらに加えさせていただきますと、屋根もないのです。そういった外の活動といいますのは、やはりお天気と勝負ですので、かまどに屋根がないものですから、雨天になりますと、何分自然には勝てず本当に苦労しております。ぜひその点もお願いできればうれしいです。

●司会　キャンプ場らしい設備を、少し追加していただきたいということですね。

●市長　ありがとうございます。

あのキャンプ場は何人ぐらいの規模を想定してつくったのか、ちょっと私も記憶にないのですが、私も荻島地区に住んでおり、よく場所はわかっています。一定の規模を想定してつくっておりその規模に即した設備を設けていると思いますので、水道だけふやせばいいというものではないかなと思います。あのキャンプ場はもうこれ以上大きくできる場所ではないですから、今後その中でどのような整備を図っていったら皆さんがより利用しやすいということになるか。屋根もそのとおりです。天候も心配でございますから。雨のときも最小限活動できるような対応を、皆さんからすれば求めていることだと思います。

場所に限定はありますけれど、関係者の皆さんからご意見等を聞きながら、できるだけの整備は図っていくようにいたしますので、積極的なプラン等もお聞かせください。

●司会　そのほかにございますでしょうか。

〇参加者　ファミリーリンク越谷から参加しています。

私は、児童館ヒマワリで講座を月６回担当させていただいています。その中でお母さんたちから､巡回バスがあるといいという話がたくさん出ます｡ベビーカーを押して駅から、雨の日歩いてくるのは大変だという話があります。また、南越谷の第一公園で子育て中のママたちのために､「公園で遊ぼう」をやっています。そこもちょっと駅から歩くには遠いですね。ですから、子育て中のママたちが移動しやすい、例えばミラクル、公園、それからコスモスやヒマワリを結ぶような巡回バスがあると、もっと利用しやすいのではないかなと思うのですが、いかがでしょうか。よろしくお願いします。

●司会　今のご意見は、ミラクル、児童館のコスモス、ヒマワリ、そのほかにも南越谷第一公園などで活動している際に、ちょっと駅から遠いので、そこまで何とか行けるような巡回バスなどができないものかということでございます。

●市長　お答えを申し上げたいと思います。

確かにそういう問題が出てまいります。そのほかに市民の生活上においても、循環バスの必要性が強く叫ばれておりますが、なかなか公営バスをというわけにいきませんので、バス事業者の皆さんにお願いしているのが実態でございます。バス事業者にしてみれば、

採算性の問題がでてまいります。

また、児童館もよかれと思って各地域に、コスモス、ヒマワリ、そしてミラクルと配置をしたわけですが、それをどうやってネットワークを張って利用者が利用しやすいようにするか。これまた非常に地域を考えてやるのと、実際の連携が難しいところです。いずれにしても利用者からすれば、確かにそういう交通の問題。ヒマワリ等については、今はいくらか駐車場を設けることができましたけれど、なかなか駐車場も思うようにとれないような状況がございますので、どうやって皆さんの利便性を図っていくかということについては、今市内に３６路線ある路線バスを活用いただきたいと思います。１時間に何本走っているのかというような問題もございますが、できるだけこのバスを利用していただくというのが、現状の説明になります。

バス路線については、議会でも超党派でいろいろバス路線網の整備ということに取り組んでいただいておりますし、私も積極的にバス路線網の整備ということについては力を入れています。しかし、なかなか事業者とのマッチングができないという状況があります。この辺については、しっかりと議論を深めながら、市民の皆さんも含めて路線の拡充を取り組んでいきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

●司会　それでは、そのほかにご意見ございますか。

○参加者　子ども会から参加しています。お世話になっており、ありがとうございます。

先ほど、キャンプ場のことについてお願いがございましたけれども、それに少し関連するかもわかりませんが、市内にあります小中学校の体育館または公民館の中の施設を１泊研修とかでは使わせてはいただけないものかなというふうに思っております。

といいますのが、私どもは年に１回か２回、１００名近くの子どもたちと一緒にキャンプをするのですけれども、今回は特にゲリラ的な雨が降りまして、Ａコースの子はその時点でキャンプができなくて中止という形になってしまい、非常にかわいそうなことになってしまいました。以前はある学校の体育館をお借りしていたのですけれども、耐震診断等のお仕事が入っていて、危険性があるかもわからないからお貸しできない。またその近隣の学校にもお願いしたのですけれども、地震等何かあったときにということで丁重なお断りをいただいてしまったのです。地震がないと仮定しまして、私どもの子ども会は、各地区で盛んに活動をしておりますので、学校の体育館等を１泊の研修の場所として使えることができれば、もっと多くの子ども会の活動ができるのではないかという意見が各地区からの理事会等の中で出てきます。その辺どうかご配慮をよろしくお願いします。

そして、増林の地区センターが今のように大きくなる以前に、あの場所に青年の家というのがございました。あれが越谷に帰ってきますときに、一番にあそこに宿泊施設をつくってほしいということを子ども会として要望して参りました。その時は、心得ておくよという返事でした。すばらしい地区センター、教育センターができて喜んでいるところではございますけれど、そういった１泊研修ができる施設を設けていただきたかった。

私たちが、場所を変えて改めてお願いしたいところは、消防署の横の昔から頑張ってくれておりますあの体育館。もう本当に古くなっておりますので、あのあたりをどうか子ども会にかかわらず、市民の皆様が１泊で研修ができるような施設につくり変えていただけ

れば非常にありがたいなというふうに思っております。そうしますと、今いろんなところで子育てとかをなさっている中で、みんなで使えるのではないかなとも思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

●**司会**　ただいまのご意見は、公民館、それから学校の施設で１泊研修ができるような場所をということです。今は、キャンプ場を利用していて、天候によっては使えない場合があるということですね。さらに第１、第２体育館。あの周辺の建てかえの際に、そういった機能も持たせた施設ができないかというご意見でございます。

●**市長**　地区センターは本当に皆さんのご理解、ご協力により大型館化ということで整備をさせていただいておりまして、やろうと思えばできないことはないと思いますね。料理教室など食事をつくる場所もありますし、子どもたちの体験のために料理教室を使うことがいいのかどうかということもありますが、何らかの形で工夫をして、こうやったら使えるではないかというようなアイデアを出していただきたい。施設は有効に活用するためにつくっているわけですから、そのためにどういうふうな形で活用したらいいのだろうか、利用したらいいのだろうかということについては、ぜひ前向きに考えていただいてご意見をお願いしたいと思います。

学校については、２４年度をもって校舎も体育館の耐震も終わりますから、地震等で危険だから、使うのはちょっと控えてくださいという、そういう言い訳はできない。こういうことになりますから、体育館等も使うことは可能です。障がい者の１泊体験活動というのを、今年は中央中学校をお借りして現実にやっておりますし、そういう活用もあります。ですから、具体的な利用形態を示していただいて、教育委員会の管理下に置いてありますが、教育委員会にも十分理解をいただいて、活用できるものは活用していく。子どもたちの健全育成のために、こういう大義もあるわけですから、具体的なプランをつくりながら、教育委員会とも十分議論をさせていただきたいと思っております。

それから、大沢の体育館、確かに昭和３５年か６年につくった体育館でして、大変老朽化しております。あと第２体育館が隣接してありますが、これを速やかに建てかえていくという大きな構想はあります。また、大沢地区センター・公民館もありますが、これも含めて考えております。これは大沢地区の取り組みとして課題を投げかけてあります。あの土地は、まだ市のものではありません。一部市で買ってありますが、所有者は香取神社です。ですから、ここに公共的なものをつくることについては、地主様のご理解をいただくことが大前提です。これをご理解いただく中で公共的な施設をどうつくるかというのが、いわば大沢地区の大きなまちづくりの中心となりますことから、地域の皆さんからはいろいろとご意見をいただいています。まだ具体的なプランにまでは至っておりませんが、これから地区センターを整備するにあたっては、大沢地区はあそこを中心に検討されるものと思っておりますので、今おっしゃられたような利用も考えられるかどうか、地域の皆さんとも十分議論しながら、できるだけ多目的に活用できるような施設であれば、なお結構だと思っております。耐震等についてはしばらくお待ちいただきたいと思います。

○**参加者**　ありがとうございました。

●**司会**　そのほかにございますか。

○参加者　子育てサポーター・チャオから参加しています。

埼玉県で去年から進めている「子ども大学」を、越谷でも去年からやっているところです。チャオがお手伝いしています。去年は文教大に協力いただきまして、大学の構内で文教大の先生方にいろいろと講義を受けました。小学校では勉強できないようないろいろな体験をしまして、子ども大学の学園祭も行いました。今年は、先月開校式を行いました。今年度は文教大と県立大にも協力いただきまして、子ども４０名ぐらいですが、市内各小学校から学区を越えて皆さんが集まって、二手に分かれて大学に行って先生方のいろんな楽しい講義を受ける予定になっています。先月開校式を兼ねまして、地域の埼玉りそな銀行の職員の方に来ていただいてのお金についての講座を行いました。これも大変おもしろく、お金の価値とか使い方、どういうふうに社会の中でお金が役に立っているかとか、そういったことを子どもたちがとても楽しく勉強することができたと思います。

子ども会をはじめ、いろんな活動が小学生にはあるのですが、文教都市といいますか、越谷はそういう中の唯一の都市ですし、川越とか行田とか去年もいろいろなところで子ども大学が開催されています。今年は、ほかの市町での開催もたくさん増えているということなので、越谷も来年、再来年という形でこれがもっと続いていけばと思っていますが、何せ県も予算がないということですので、チャオの持ち出しでやっています。今年は青年会議所の方々の協力を得て、市民まつりのときに体験コーナーと模擬店をやりましたが、そういった備品なんかも持ち出しでやっています。

やっぱり完全なボランティアですと、なかなか続かないというところもあります。できましたら、一つチャオからの提案なのですが、越谷でも市民大学というのがあると思うのですが、それは大人の方だけの勉強です。越谷市内の住民の方々がいろんな勉強をされていると思いますが、その中に子どもも含めていただければとてもありがたいと思います。そちらの予算をちょっとでもいいですので、子ども大学でいろんな学習をされている子どもたちに予算を割いていただくと、今後も来年も再来年もずっと続けていけるのではないかと思います。勝手ながら、そんなことを市でも考えていただければと思いますので、ご検討をよろしくお願いします。

●司会　子ども大学、これは県の事業なのですか。

○参加者　一応県の事業で２年間という形です。予算がないということで、今年も１００％は出せないということになっています。ですから、今回の市民まつりでの模擬店も、子どもたちにお店を最初から最後までやらせるという企画を立て、ちゃんとお店の店員さんとなってやっていただくという目的もあるのですが、その商品を揃えるのも全部チャオの持ち出しという形です。多少なりともそういった活動費を出していただくと助かるかなと思います。よろしくお願いします。

●司会　そういう助成ができないかということが一つと、もう一つとしては、生涯学習のほうでやっている市民大学。これに子ども大学というバージョンを加えるというような形で継続できないかと、こういう二つの提案でございます。

●市長　子ども大学を継続的にやっていきたいと、こういうご希望だと思うのですが、単発的であれば、しらこばと基金等で採用されればできます。毎年毎年ということでは、なか

なかオーケーは出ないと思います。それでは皆さんの希望には沿えないと、こういうことになろうかと思います。

子ども大学の必要性ということについては、ある程度理解しますが、さまざまな取り組みがありますから、どうやって継続を図っていくか。もちろんお金もかかりますから。市民大学については、司会者も言いましたが、教育総務部で生涯学習としてやっています。子どもをどういうふうに取り込んでいくかということもありますので、今すぐ、やりましょうとか反対ですというわけにもいきませんが、子ども大学の内容等についても、当然いろいろと議論がされてくると思います。どうやったら継続的に毎年開催することができるか。効果や必要性等についても十分議論したいと思います。よく協議をさせてください。

●司会　そのほかございますか。

○参加者　質問でもよろしいですか。

●司会　質問、はい。

○参加者　家庭保育室の先ほどの資料でちょっとご質問をしたいのですが、家庭保育室の定員数の割には、利用の人数が少ないですね。先ほどのお話では、家庭保育室も頑張ってつくっていらっしゃるというようなお話があったのですけれども、定員に空きはあるのに利用されていないという理由は何なのでしょうか。その辺ちょっとお聞かせいただきたいのですが。

●司会　先ほどのスライドの説明で家庭保育室の表がありました。あの定員枠に利用者がいっぱいになっていない。その理由はどういうことなのでしょうかという。

●市長　部長から説明させます。

●子ども家庭部長　それでは、家庭保育室に関するご質問ですけれども、基本的には保育所は認可保育所と認可外保育所、二つに分かれています。認可保育所については、公立保育所、私立の保育園。また認可外ということで家庭保育室、またベビーホテルなどがあります。そういう中で、家庭保育室は認可保育所、保育園の補完的な役割ということで、非常にニーズの高いゼロ、１、２歳児の保育を行っています。

先ほど説明ありましたけれど、待機児童が昨年は６１名だったのですが、本年度は４１名と、２０名減少しました。その８割になる３０数名がゼロ、１、２歳児ということです。ですから、ニーズは高いはずです。ただ、保護者の方々は最終的な選択ということになると、認可保育所を選択されます。認可保育所入所の選考にもれたが、やっぱりお子さんを預けないとどうしても働くことができないという方々については、家庭保育室の方々とお話し合いをさし、入室しています。年度当初は入室が少なく、年度途中から年度末にかけて定員が埋まっていくというような状況がございます。認可保育所にも定員に限りがあり、利用できなかった方が待機児童とならないよう、認可保育所利用不承諾の通知とあわせて家庭保育室の利用についても積極的にご案内をしているところでございますが、最終的にはこのような状況になっているということだと思います。

○参加者　ということは、やはり家庭保育室は、認可の施設を利用するまでのとりあえずの場所というような認識で預けられる方が多いというようなことでよろしいのでしょうか。そうすると、最終的には働きながら子育てをするお母さんたちは、認可の保育園に入れた

いというご希望が強いということでよろしいのでしょうか。

●**市長**　資料の７番に表にしたものがありますが、これは４月１日現在というようなことでございまして、４月はどうしても公立保育所等を第１希望にされる方が多いわけですから、４月１日時点では定員に達していない。こういうことに結果的になっているわけです。家庭保育室を経営している皆さんは一生懸命取り組んでいただいているというふうに私は理解をいたしております。ですから、公立一辺倒のお考えを改めていただいて、ぜひ近くに家庭保育室があれば、家庭保育室に行っていただきたい。中身の充実ということも、家庭保育室経営者からも求められております。確かに公立と比較した場合にどうなのだと言われますが、家庭保育室を経営している人も多くの課題を抱えておりますから、一概にこっちがいい、あっちがいいというふうにはならないと私は思っております。物理的な問題もあります。少し離れた郊外の保育所は空いている。しかし、送迎は厳しいから近くに欲しい。しかし、近くは他の条件で優先する人が多くいて入れない。そういう物理的な問題もあります。ですから、なかなか定数そのものは、おしなべて見れば足りているということも言えないわけではないのですけれども、物理的な問題もありますし、保護者の希望もありますから、この辺がすんなりはまらないというのが実態だと私は理解をしております。

　だからといって、もうこれで終わりということにはならないし、もっともっと私は子どもさんをたくさん産んでいただいて、少子化対策にしっかり取り組んでいかなくてはいけない。その最たるものが、保育所や学童保育室の整備ですから、しっかりと取り組んでいくようにしたいと思います。公立、私立とも変わりのないような対応策をこれからも進めていくようにしたいと思いますので、ぜひ私立の家庭保育室についても理解を深めていただきたいと、改めてお願いしたいと思います。

●**司会**　そのほかにございますでしょうか。

○**参加者**　越谷子育てサークルネットワークの会から参加しています。いつも行政の皆さんにはお世話になっており、ありがとうございます。

　実は、私どもの団体は、１９団体サークルネットワークの中に入っているのですが、年間で６００回以上の活動を、ヒマワリさんやコスモスさんの児童館を初め、公民館等でやらせていただいています。活動が多いものですから、こういう時代なので心配になってくるのが、やはり大きな地震です。首都圏直下型が来るとか東海沖地震が来るとか、そういった心配の声が、母様たちの中で上がっているという状況です。

　もし万が一活動中に大きな地震に遭遇した場合、各公民館や児童館ヒマワリ、児童館コスモスさん、ミラクルさんも含めて、その中で安心して安全に子どもたち、お母さんたちが守られる、そのような体制がとれているかどうかと、あと、そこら辺の問題点、課題点、そういうものがございましたら、ちょっと現状をお聞かせ願えればありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

●**司会**　公民館は市内の１３公民館ですかね。それと児童館ですね。震災が起きた場合の建物の心配と安全対策ということでしょうかね。

○**参加者**　建物もそうですけれども、足止を食らった場合とかですね。

●**司会**　足止めとは、帰宅困難ということですか。

○参加者　そうですね。例えば電車とかで来ているとき、移動できなくなりますし、避難訓練等も行われているとは思うのですが、移動困難とか、鉄道が止まるとかですね。さまざまな状況が考えられると思います。あと、ご家庭の方との連絡とか、そういうことです。

●司会　連絡体制も含めてということですね。わかりました。

●市長　そういう地震災害等については、団体として活動されている皆さん方に限らず、利用している人皆に共通する話でございますので、施設ごとの避難訓練等についても計画し、実行もしていますので部長から説明をさせます。

●子ども家庭部長　では、私のほうからお答えさせていただきます。

冒頭市長のあいさつの中で３月１１日の東日本大震災の話がありましたが、今回の大震災では帰宅困難者ということが大きくクローズアップされました。これは想定外と皆さん言っていますが、私は、想定の範囲内であったのではないかなという感じがします。思いがけない災害が来た場合は、こういった状況も起こるのだということを、我々も大きな教訓の一つということでとらえております。

したがいまして、学校も保育所も学童保育室もそうだったのですけれど、保護者の方で、東京に勤務されている方が非常に困難を極めた。歩いて帰ってきて、それこそ夜の１０時、１２時。ある保育園では、午前２時に引き渡しをしたという例もございました。公立保育所でもお泊まり保育ではないですけれども、保護者の方にも無理をなさらないでくださいということで、翌朝直接お子さんを引き渡した経過がございます。

そういったことで、いろいろなケースがあったわけですけれども、ご質問の児童館につきましても、そういったことが当然想定されると思います。ですから、子ども家庭部としては、マニュアルを更新し、今までの考え方ではなく、こういうことも起きるのだということで、マニュアルの更新をさせていただきました。保育所、さらにはみのり学園、あけぼの学園、児童館コスモス、ヒマワリで、学童保育室もそうです。基本となることは、やはり我々は大切なお子さんをお預かりしている施設ですから、保護者の方に直接引き渡しをする。それが難しい場合は、おじいちゃん、おばあちゃんご親戚の方などに引き渡す。そういう形でやっていきたいなと考えています。

児童館を一人で利用するお子さんの場合は小学生以上ですから、そこら辺をきちっと伝えることもできますし、そういう連絡もできると思います。ただ、通信手段ということが今回大きな課題になりましたが、その辺もツイッターやメールとか、それらの通信手段について十分検討していきたいと考えています。

直接保護者の方に会って引き渡しをするということを基本に、児童館も保育所もマニュアルを更新しました。この間の台風１５号についてもそうでしたが、学童保育室でもちょっと迎えがおくれたお子さんもいたのですが、直接保護者に引き渡しをしたという例がございました。そういったことで、子どもたちの安全・安心を第一に心がけていきたいと思っています。

●司会　そのほかにございますでしょうか。

○参加者　子育てサポーター・チャオから参加しています。放課後子ども教室を担当しております。

防犯を兼ねて､ちょっとお聞きしたいのですが､最近不審者情報が入ってくるのですが、保護者から聞きますと、そういった場合は、子どもさんは逃げていると言います。多分、小学生は防犯ベルというのを持っているのではないかと思います。それの使い道と、子ども１１０番というお宅がありますが、それをどういうふうに活用しているのか、お聞きしたいのですが。

●司会　ただいまのご意見でございます。

今、越谷Cityメールで不審者情報というのをお送りしています。その場合、登録している方は大体大人の方ですから、お子さんがもしそうした場面に遭遇した場合の防犯ベルの使い道とか、子ども１１０番の家庭へ逃げ込むのかという、そういうことですかね。

●市長　大変恐縮でございますが、防犯ベルを生徒全員が持っているということを私は確認していないのですが、新入児童が持っている防犯ベルのことではないですよね。新入児童には、ピンを外すとブーッと鳴るような、そういうものはお渡ししてありますが、小学生全員が持っているかどうか確認はしておりません。これはよく確認させてください。

○参加者　渡っています。トラック協会さんが寄附してくださって、トラックの形をしています。

●市長　６年間ずっと持っていれば全員持っていることになるのですけれども、それがいざというときに有効活用が図れるよう、教育委員会が所管して取り組んでいると思いますので、改めてその点については確認をさせていただきます。

それから、子ども１１０番の家。通学路等表示板が設置されて、大勢の方々にご協力をいただいておりますが、定期的な連絡等をとったりして、いざというときに、１１０番の家の表示板が機能を果たしているのかどうか。ちょっとこの辺も定かに確認しておりませんので、ＰＴＡの皆さんがどのような形でその活用を図っているか、効果を期待しているか、よく確認をいたしまして、しっかりと効果ある対策に組織で取り組んでいく必要があると思いますので、お預かりいたします。

●司会　では、ただいまの件については確認をさせていただいて、また回答させていただきます。

回答⇒（　防犯ベルにつきましては､毎年トラック協会様より小学校新入学生全員に配布できるよう、無償でいただいております。
　防犯ベルの使い方については、取扱説明書が同封されており、保護者が使用方法について児童に指導できるように配慮されています。
　また、学校においても継続的に指導されており、市内各小中学校から提出される安全教育に関する年間指導計画には､「安全な登下校の仕方」や「不審者に遭った時の対応」というテーマで、生活科の授業、総合的な学習の時間の授業、学活、学年集会、全校集会時等を利用して児童生徒の指導に当たる旨が記載されております。
　「子ども110番の家」は、登下校や塾通いの子どもたちが犯罪被害や事故に遭った場合、すぐに駆け込めるように小中学校のＰＴＡが中心となって、地域住民の民家や商店などに、分かりやすい表示板を設置しています。
　現在、市内全域にＰＴＡ、学校、自治会などが中心となり、約３，６００カ所に設置されているところです。）

そのほかにございますでしょうか。家庭保育室のお話も出ましたが、保育関係の方で何かございますか。

○参加者　一般で参加しております。

家庭保育室のことですが、認可外の保育施設が３１室もありますね。それは認可外だから、もちろん補助金とか出ていないと思うのですけれども、市のほうできちんと調査をして、これだったら大丈夫というところには少し援助してあげれば、どうでしょうか。預ける方がお断りするのは、きっと費用の面で公の保育所よりも高額だと思うのです。そういう面も考えて、全室とはいいませんが、そういうところに少し手を差し伸べてあげれば、待機児童の方々の８０％の方々の内、何人かはそちらのほうに入る気持ちがあるのではないかなと思っておりますので、ちょっとお考えいただければと思っています。

それから、巡回バスなのですが、業者の方にも経費の問題とかがありまして、市内全部にというのは、個人的に考えてもちょっと無理かなと思います。ぜひ、そういうふうにしていただきたいという気持ちもあるのですが、本当にすごい遠方だったら仕方ないのですが、蒲生駅からヒマワリぐらいだったら、たまには傘を差して長靴を履いてお母さんと、行く体験をしてもいいと思います。今はすごく恵まれた子育てをしている中で、ちょっと苦労するとか、嵐ではない限りはそういう体験も必要かなと思います。もちろんあるということはとても望ましいことなのですけれども、自分が子育てしたときはそういうふうに考えながらしましたので、ちょっとそれがもしできれば、最高だと思います。

それから、担当課は違いますけれど、先ほど子ども大学のお話が出ました。きょうは、生涯学習民間ネットワーク協会の理事長さんも見えていますけれど、実は蒲生地区センターから８年前に蒲生寺子屋というのを委託されました。ことしで８年目になります。そこで、家庭や学校で体験できないことを月１回やっていて、すごく人気があります。そこに生涯学習の民間ネットワーク協会からの代表の一人として私も携わっております。いろんな体験をして子どもたちが地域で育っておりますということをご報告させていただきます。

●司会　それでは今のご意見でございます。

３点ございましたが、１点目は家庭保育室ですね、認可外の保育室に助成金を少し出せば、利用者も利用しやすくなるのではないかということ。それから、もう一つは巡回バスですが、これも先ほどのご意見に対してのご感想でしょうか。雨の日にお子さんとその施設まで歩くというのも、いい体験なのではないかという点。それから、蒲生の寺子屋、もう８年になるが、月１回、これも子どもの生涯学習ということになりましょうか、なかなか人気があるということでございます。

それでは、１番目の家庭保育室の補助について。

●市長　家庭保育室へは、若干ですが、助成はしております。内容につきましては、部長から説明をさせます。

あとは、一つのご意見、ご提言として、しっかり受けとめさせていただきます。

●子ども家庭部長　家庭保育室は、先ほども申し上げましたとおり、ゼロ、１、２歳児の乳児保育ということで重要な役割を担っていただいております。この家庭保育室事業は、昭和４８年１０月から埼玉県の家庭保育室事業との連携により事業をスタートしました。

補助については２通りございまして、家庭保育室そのものの運営に対する補助ということで、委託料。これをお支払いしています。また先ほど申し上げましたように、家庭保育室にお子さんを預けている保護者の方にも補助させていただいております。額を申し上げ

ますと、委託料については約３，７６５万円、保護者への補助金については８，０９３万円ということで、合計１億１，８００万ほどの補助をさせていただいております。今後も埼玉県と連携を図りながら、この家庭保育室の事業の充実に努めていきたいと思います。

また、ここのところで、家庭保育室では、運営に修繕等のお金がかかりますので、支援の充実をはかるため、この４月から新たに助成をさせていただいたところでございます。

●司会　それでは、そのほかにございますでしょうか。

○参加者　家庭保育室駅前保育園ポコ・ア・ポコで園長をしています。

一つ、二つお聞きします。この資料の６ページ、これがよくわからないのですが、定員が３６７人に対して、利用者が４月１日現在で２０５人ということは、１６０人ほど定員割れしているということですね。実際どうだったのかなというのもあるのですけれども、私たちは高い家賃を払ってテナントを借りて家庭保育室を運営しています。昭和48年からと言われていますが、ここ７、８年は法人化している保育園が、保育士を雇用して事務所を借りて運営しています。その前は自宅で子どもを預かるというのがスタートだったと思うのです。私たちも待機児童をどうにか解消しようと思って協力しているつもりでおります。たしか昨年は６１名の待機児童ということで、内装を変えたりして部屋の広さを確保してやっているのですが、実際ふたをあけてみるとこういう状況なのですね。待機児童が６１名いるのに、実際は４月になると、認可保育園は希望するけれど、家庭保育室には行きたくない。こういう状況が毎年続いているということです。

こういった現象を、高橋市長との話し合いの中でも何度かお話しさせていただいているのですが、ぜひ家庭保育室にも、同じような補助が出ていると聞いていますので、利用については補助がありますよということをもっと市民の方にＰＲしていただきたいと思っています。恐らく家庭保育室は、どこも運営がすごく大変です。市民の方は保育状況がわからないと思うのです。本当に６１名の待機児童がいるのだからと思ってやっているのですが、１６０名が家庭保育室を希望されないという、これが現状です。ぜひＰＲのほうもひとつよろしくお願いいたします。

●司会　ただいまのご意見でございます。

家庭保育室の経営は厳しい状況の中で頑張っておられるということで、ぜひ家庭保育室をＰＲしてもらいたいというご意見でございます。

●市長　先ほども触れましたが、家庭保育室の運営に積極的に取り組んでいただいていることにつきましては、深く感謝をいたしております。

しかし、先ほども申し上げましたように、地理的条件で空いているけれども、遠くてなかなか行けないというような問題や、どうしても公立を優先的に望むという問題。公立の保育所で集団生活をぜひマスターさせたいということで、家庭保育室を敬遠する人もいるということは事実でございます。家庭保育室でも一生懸命子どもたちをしっかりと保育、指導していきたいと、法人化も進んでいるということで、積極的に取り組んできていただいております。子ども家庭部でも保育室の申し込み受け付けの中で、公立はもう定員いっぱいですけれど、家庭保育室がありますよということで紹介はしているということなのですが、どうしても公立にこだわるという方がいらっしゃるということでございます。５月、

６月、７月になるとだんだんと家庭保育室に入っていただけるというか、親御さんの事情もありますから、家庭保育室に預けて働きに行こうと、こういうことになっていくようなのです。ですから、４月、５月というのは、家庭保育室の定数がいっぱいになるということがないというようなことも部長から聞いております。

部長から細かく、今の状況を説明させたいと思います。

●**子ども家庭部長**　では、私から補足をさせていただきます。資料のとおり４月１日現在では、家庭保育室の利用人数が２０５人という形になっています。９月１日現在では２７９名ということで、７０人を超える子どもたちが増えています。先ほど申し上げましたように、年度当初は定員に空きがあり、月日が経つにつれて入室されるという状況がございます。９月までに７０人の利用者が増えていますので、これからも積極的にいろんなＰＲをしていきたいと考えています。

先ほど申し上げましたが、保育所は、当然保育に欠けるということで、保育実施基準表に基づいてとにかく公平、公正に選考させていただいています。指数の高い順から入所できますので､残念ながら点数が足りなくて入所できない場合は､不承諾通知を保護者の方々に差し上げております。その不承諾の通知の中に家庭保育室、ゼロ、１、２歳児の場合は家庭保育室のご案内をさせていただくとともに、保護者への補助による負担の軽減もご案内をさせていただいております。今後も広報やホームページ、市民ガイドブック、保護者の通知等においてしっかりとご案内し、ＰＲしていきたいと考えています。ご理解を賜りたいと存じます。

●**司会**　それでは、大分時間が迫ってまいりました。最後のご質問ということでお願いしたいと思います。

○**参加者**　本日は、子ども会のほうから出席させていただいております。

私の居住地区の小学校で、学校応援団という組織のコーディネーターもさせていただいております。先ほど放課後子ども教室の方からのお話にもありましたが、やはりボランティア集めには同じように苦労しています。学校応援団は、学校の中の組織でございますので、基本的には保護者の中からボランティアを集められれば一番いいのですが、ＰＴＡとは別の組織ということで組まれており、地域の中からもご協力をいただいて学校を支えようという趣旨のものです。地域にもっといろいろ投げかけをして、努力をしていかなければいけないなというこちら側の問題ももちろんあるのですが、市役所内でも課を越えて横のつながりを持っていただけると、とてもありがたいかなというふうに思っております。

それから、この場所で質問していいものか、ちょっと迷ったのですが、学校のコーディネーターをさせていただきながら、市の学校応援団の運営委員にも参加させていただいていますが、その活動に対しての予算が今年度は出るのかというのが、毎年問題になるのですが､昨年度もお返事をいただけたのが１１月とか１２月なのです｡活動しておりまして、どこのボランティアの団体も同じ状況を抱えていらっしゃるとは思うのですが、運営していく中で配布物をつくる紙代とか印刷代など、そういう細かいランニングコストがかかるので、今のところ学校でお世話になっているのですが、本来でしたらそれは学校から出していただくお金ではないのではないかなということを思いながら活動しています｡学校も、

学校を助けていただくための組織ですからいいですよということでご協力いただいているのですが、学校のものを使わせていただいたり、私たちボランティアの持ち出しなど、そういったことがありますので、毎年、今年はどうなのだろうと運営委員会の中で話が出ます。そんなに大きい額にはならないと思うのです。

各学校で活動の内容が違いますから、一概にどれぐらいという金額は言えませんけれど、ある程度継続してきて、今では市内の小中学校すべてに整備されましたということで教育委員会も説明していらっしゃいますので、できましたら予算化して毎年計上していただけるととってもありがたいです。その辺今年度についてはどうなっているか、教えていただけるとありがたいのですが。

●**司会**　ただいまのご意見でございます。

先ほどお話がございました、学校応援団ボランティアの確保、これも大変だということで、市役所の中も縦割りでなくて横の連携をとってもらいたいというご要望が１点。　もう一点は活動する際の消耗品など、活動経費は学校から支出をしているようですが、これらについて予算化をしていただきたい。ボランティアの皆さんからなかなかお金の話は持ち出しづらいということもあるのでしょうか。そういうことで、ある程度予算化をお願いしたいということでございます。

●**市長**　ただいまのご質問につきましては、言葉は適切ではないのですが、学校と地域との連携を深めるという、そういう趣旨で県が音頭を取って、地域で学校を見守り、きちんとした取り組みを協働でやろうということで、越谷市も全校にこの学校応援団の組織ができたということを聞いております。

したがって、任意の団体として地域とのそういうかかわりを深めていこうということに大分力点を置いている。しかし、残念ながら予算措置については、具体的な支援というのが思うようにはなく、皆さんの希望にかなっていないということだと思います。学校の健全育成については、学校任せではない。ＰＴＡだけでもないということで、地域ぐるみの学校支え合い事業の一つとして取り組まれてきていると私も理解しています。

どこまで学校応援団の皆さんに期待をしているのかというようなことがかかわってまいります。あくまでもボランティアということで、特に朝の登校時に皆さんが来て、子どもたちが元気な姿で学校に入っていけるようにいつも見守っているとか、そういうことをやっていただいていると思うのですが、ぜひ趣旨と、期待するところがどこまでかというようなことを教育委員会と話を詰めていき、その必要の度合いがどの程度か、この辺も含めてよく協議をさせてください。その上で、予算について考えるということになります。

毎年１１月末には各部署から予算要望というのが上がってきます。年が変わると同時に内容精査をして編成していくと、こういう段取りになっておりますから、その予算編成の時期も踏まえて、よく内容を把握するように努めたいと思いますので、ご理解ください。

●**司会**　それでは、まだまだ皆さんからたくさんのご意見をいただきたいところではございますが、予定の時間が参りましたので、この辺でふれあいミーティングを閉じさせていただきたいと存じます。

ご発言できなかった方につきましては、初めにお配りをさせていただいた用紙にご記入

の上、お帰りの際にご提出をいただきたいと存じます。

それでは、閉会のあいさつを武藤副市長から申し上げます。

●副市長　それでは、閉会に当たりまして、一言御礼を申し上げます。

本日は、大変お忙しい中、多くの皆様にご参加をいただきまして、まことにありがとうございました。また、限られた時間ではございましたが、たくさんのご意見、ご提言等をいただきまして、まことにありがとうございました。

すぐにできるものにつきましては、すぐに施策に反映をさせていきたいというふうにも考えておりますし、また多少お時間をいただいて検討を要するものにつきましては、今後十分検討させていただいて、子育て支援策に反映をさせていきたいというふうに思っております。

大変お忙しいところ、本日はまことにありがとうございました。

以上をもちまして、ふれあいミーティングを終了とさせていただきます。ありがとうございました。

２　参加者からの意見・要望（文書で提出されたもの）

※参加者の意見･要望は､文書で寄せられた原文に近い状態で掲載しています。

〇参加者　“なんでも話そう”とありますが、なんでも話せるような雰囲気ではないように感じます。今後は、市長と各担当者と市民で、行政スタッフは最小限の人数に抑えて市民が主催し、司会も市民から選んでください。

●市　今後のふれあいミーティングへのご意見として承ります。

〇参加者　子どもたちを預かる立場でＮＰＯ法人を立ち上げて、少年少女にサッカーを教えていますが、南越谷小学校のグラウンドが使えない現状にあります。もちろん、現在のＮＰＯ法人の運営は、民間の施設、幼稚園施設、公設のグラウンド等を借用しているため、回数によって６，０００円から８，０００円は月額徴収していますが、決して営利目的にはなり得ません。毎年、県や市より免税措置をいただいているＮＰＯ活動です。

しかしながら、南越谷小学校のグラウンドが借用できれば、会費を下げることが可能です。正式な回答をお願いします。

●市　本市では、「越谷市立小中学校体育施設開放に関する規則」に基づき昭和 50 年より地域住民のスポーツ・レクリエーションの普及、振興を図る目的で、市内の小中学校の体育施設を学校教育に支障のない範囲で土曜日の午後と休日にあらかじめ登録（地区住民 10 名以上）した団体に開放できるよう規定を設け、各地区のスポーツ・レクリエーション推進委員会に管理運営をお願いしております。

なお、対象活動については、地区住民が自主的にグループをつくり、スポーツ・レクリエーションを行う活動及び地区スポーツ・レクリエーション推進委員会や地区住民が組織的に地区住民を対象に行うスポーツ・レクリエーション行事としております。よって、貴法人の活動は、当該規則の対象活動には該当いたしませんので、ご理解を賜りたいと存じます。今後につきましては、スポーツ・レクリエーションの普及、振興がさらに図れるよう、限りある施設の有効活用の方策を検討してまいります。

〇参加者　越谷市内の公立保育所では、全所（園）に看護師が配置されＡＥＤが設置されていて、とても素晴らしいと思います。当園も大切な命をお預かりする以上、万が一に備え、ＡＥＤを設置しております。実際保護者の皆様から安心だという声も多く聞かれるので、継続設置（レンタル）していますが、当園も決して経営が安定しておらず、ＡＥＤの継続設置が厳しい現状です。

子どもの命の重さは、公（認可）私（無認可）も差はないと思います。どうか、家庭保育室にもＡＥＤ設置への援助をお願いしたいと思います。

今回のミーティングの中でも質問にありましたが、なぜ、親は家庭保育室ではなく、公立を選ぶのかの一つの答えでもあります。家庭保育室の安全性の向上、イメージアップにもつながると思います。

●市　日頃より保育行政にご尽力いただき誠に感謝申し上げます。また、ＡＥＤの設置について、十分なご理解ご協力を賜り、貴園におかれましては自助努力により継続設置されて

いるとのことで重ねて感謝申し上げます。

さて、ＡＥＤの設置・普及には必然的に経費が伴うことから、まずは市で管理する公共施設での設置を実施し普及を図ってまいりました。

お尋ねの家庭保育室へのＡＥＤ設置に対する援助でございますが、埼玉県と連携を図りつつ、今後の検討課題とさせていただきたいと存じます。

なお、市民への家庭保育室のご案内については、今後も広報・子育てガイドブック・市民ガイドブック・ホームページ等により積極的にご紹介・ご案内してまいりたいと存じます。

○参加者　つどいの広場を運営しています。埼玉県よりガイドラインが提案されていますが、応援タウン認定された現在、子育て支援ネットワークの団体の研修を市の主催で開いていただきたい。参考として、ＮＰＯ法人子育てひろば全国連絡協議会で研修概要を作成し、研修テキスト・ファシリテーターの活躍を提案しています。

●市　支援拠点職員の研修等につきましては、埼玉県により「支援拠点職員全体研修会」として行われているところですが、今後も子育て支援拠点の職員への周知に努め、市内の支援拠点の質の向上を図るとともに、市主催の研修等につきましても検討してまいります。

○参加者　次回、子育て関連のミーティングを行う際には、ぜひ教育委員会の出席をお願いします。

●市　今後のふれあいミーティングへのご意見として承ります。

○参加者　家庭保育室とは、家庭でお子さんを預かって保育しているところとばかり思っていましたが、現在は保育所（認可外）として経営していることを今日知りました。都内でよく言われている認証保育園のような役割をしているのでしょうか。もし、そういう役割をしているのであれば、ＰＲすることも大切ですし、認可外とういうことを何とか改善していくことが必要かと思いました。

●市　越谷市における「家庭保育室」は、埼玉県で定めている「家庭保育室等運営費補助事業実施要項」に基づき実施している認可外保育施設でございます。これは、東京都で実施している「認証保育所」とは異なる制度でございます。「認可外」としての基準を満たしていることから、越谷市が「家庭保育室」として指定し、その運営に対しまして積極的に支援しており、市民の方々に安心してご利用いただける施設としてご案内しております。

○参加者　現在、子育てをしている人たちがもっと参加できるともっともっとたくさん現実的に困っている意見も出るのではないかと思いました。

●市　　今後のふれあいミーティングへの意見として承ります。

○参加者　放課後子ども教室に関しましては、久喜市が市をあげてボランティアの参加に取り組んでいると思います。私も放課後子ども教室越ヶ谷小で（キラリン）のコーディネーターをしています。県の研修会の事例報告で伺いました。やはり、行政がこの事業をさらに積極的に関連する地域の団体に働きかけていただくとよいと思います。参加している子やボランティアの地域の方は相互に大きなパワーをいただいています。さらなる継続した支援を財政面も含めお願いします。

●市　放課後子ども教室におけるボランティア募集への取組につきましては、青少年関係団

体への協力依頼、「広報こしがや」やホームページ等への掲載、市内大学・専門学校への周知等を実施しており、更に幅広く、関係団体や地域の団体への周知、イベントでのＰＲ活動等に取り組んで参ります。

今後も事業が継続して実施できるよう一層支援をしてまいります。

○参加者　待機児童の件も、待機者ゼロを目標にさらなる推進をお願いしたいです。

●市　今後も、仕事と子育ての両立支援を図るため、保育所、保育園、及び家庭保育室などを拡充し、待機児童の解消に努めてまいりたいと存じます。

○参加者　越谷駅にも保育ステーションの設置をしていただけたら、とても助かると思います。働く若い世代が住みよい生活しやすい所であれば、さらに住民が増え、市にとってもプラスになると思います。

働く若いお母さんに手厚い支援の第一は保育所等だと思います。「子育てするなら越谷市」とても良いと思います。活力ある世代が増えるのを期待します。

●市　現在、保育ステーションは、北越谷駅前と新越谷駅前の２カ所に設置し、運営しております。この２カ所における送迎保育については、まだ利用が可能な状況でございます。

また、一時預かりや、子育て支援講座等についても、受け入れが可能との状況もありますので、これらの施設での事業実施について今後も充実を図ってまいりたいと考えております。ご意見をいただきました、越谷駅前への保育ステーションの設置については、南北の各保育ステーションの利用と実施の状況を見極めつつ検討してまいりたいと存じます。

今後も「子育てするなら越谷」と言われるよう、子育てしやすいまちを目指し子育て支援施設の充実に努めてまいります。

○参加者　子ども会活動の日頃の支援を感謝しております。子ども会活動に参加する子どもたちはもとより、育成者のみなさんも大きく成長されています（活動を通して）。親ごさんにとっても地域活動の第一歩です。地域力を高める第一歩が地域活動への参加だと思います。これからも行政のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

●市　子ども会を通じた地域活動の推進に対するご意見として承ります。

○参加者　市長、行政の方から直接お話しを伺えて大変良かったです。市長の子育てに関する姿勢も拝見でき、期待に大きく胸が膨らみました。

●市　ふれあいミーティングへのご意見ご感想として承ります。

○参加者　説明のアナウンスがとても聞きやすかったです。

司会者のつなぎもとてもわかりやすかったです。

初めての参加でありましたが、市長さんと直接の説明もとてもよかったと思います。越谷市の姿勢もこれから楽しみです。ありがとうございました。

●市　ふれあいミーティングへのご意見ご感想として承ります。

３　参加者の状況

１　参加人数　　２５人　　（男性　６人、女性　１９　人）

（内訳）　一般参加者　　２人

団体参加者　　２３人

（参加団体一覧）

	団体名		団体名
1	NPO 法人子育てサポーター・チャオ	16	
2	越谷子育てサークルネットワークの会	17	
3	子育て支援ワーカーズ・コレクティブみるく	18	
4	越谷市私立保育園協会	19	
5	家庭保育室連絡会	20	
6	越谷市子ども会育成連絡協議会	21	
7	越谷市放課後子ども教室	22	
8	NPO 法人ファミリーリンク越谷	23	
9		24	
10		25	
11		26	
12		27	
13		28	
14		29	
15		30	

２　市側出席者

市長、副市長、市長公室長、子ども家庭部長、子育て支援課長、青少年課長、保育課主幹、コスモス館長、ひまわり館長、政策監、秘書課長、市長公室副参事（進行）

３　参加者アンケート

市政（今回のテーマ）に関心を寄せられている方の傾向や情報取得の媒体など、今後の参考とするために、参加者を対象にアンケートを実施しました。

（25 人中 23 人回収）

アンケート回収	性別				参加者の年代									開催を知った情報媒体				
	男	女	不明	計	10	20	30	40	50	60	70	80～	不明	広報	TV	HP	団体	その他
23	5	18		23			1	5	11	5	1			4			21	1